

→ここに注目！

あらためて、
「見方・考え方」
とは何か

社会科 NAVI



本資料は、一般社団法人教科書協会
「教科書発行者行動規範」に則り、
配布を許可されているものです。

日文の実践事例、教科情報

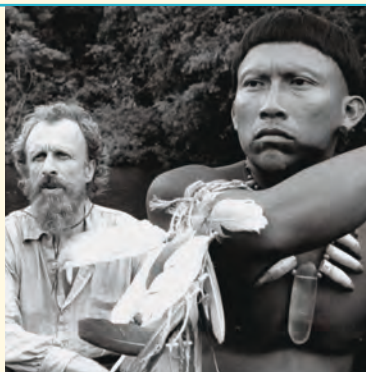
詳しくはWebへ！

日文

検索

未来をになう子どもたちへ

日本文教出版



表紙写真解説

鳴門海峡の渦潮：大潮時には潮流は時速20km、渦の大きさは直径30mに達することもある、世界最大級の渦潮。イタリアのメッシナ海峡（シチリア島）、カナダのセイモア海峡と並んで世界三大潮流とされている。現在、世界遺産登録を目指した活動が行われている。
写真提供／アフロ

3

著者だより

カザフ人のゆりかご

国立民族学博物館教授 小長谷 有紀

4

ここに注目！

あらためて、「見方・考え方」とは何か

広島大学大学院教育学研究科准教授 永田 忠道

6

実践ファイル

〔小学校編〕新学習指導要領に対応した第6学年の指導

東京都豊島区立千早小学校 仲 純平

愛知教育大学教授 土屋 武志

10

授業力アップをめざす先生のための社会科のABC

〔小学校編〕問題解決的な学習って何だろう？

國學院大學教授 安野 功

〔中学校編〕黒板を有効活用するには？

大阪教育大学・大阪成蹊大学・武庫川女子大学非常勤講師 丹松 美代志

12

わたしの社会貢献 vol.4

経済教育ネットワークがつなぐ社会科教育

同志社大学教授 野間 敏克

14

みんなくワールドシネマ vol.20

「彷徨える河」

国立民族学博物館助教 八木 百合子

16

ようこそ！ 歴史史料の世界へ vol.21

五箇条の御誓文とその後

佛光大学教授 原田 敬一

18

現代社会ウォッチング vol.7

外国からみる日本の政治

東海大学教授・筑波大学名誉教授 辻中 豊

20

地域からの発信

完全養殖クロマグロの誕生と未来

近畿大学水産研究所所長 升間 主計

22

しごと図鑑

イラストレーターの仕事

イラストレーター 香川 元太郎

24

大人の社会見学

実は世界で唯一の“公立”盆栽美術館

さいたま市大宮盆栽美術館

学芸員 石田 留美子



リレーエッセイ



小長谷 有紀 (こながや ゆき)

専門分野／文化人類学、モンゴル・中央アジアの遊牧文化

主要著書／『人類学者は草原に育つ—変貌するモンゴルとともに』(臨川書店, 2014年), 『世界の食文化(3) モンゴル』(農山漁村文化協会, 2005年), 『中国の環境政策「生態移民」—緑の大地, 内モンゴルの砂漠化を防げるか?』(編著, 昭和堂, 2005年)
日本文教出版『中学社会』教科書著者



アルタイ山中の夏営地にて(左から3人目が著者)

カザフ人のゆりかご

国立民族学博物館教授 小長谷 有紀

モンゴル国の最西部にあるバヤンウルギー(モンゴル語で「豊かなゆりかご」という意味)県を久しぶりに訪問した。中国新疆ウイグル自治区と接しており、およそ9万人の住民の約9割がカザフ人である。

民主化直後と比べてかなり開放的になっていた。というのも、国境付近にあるタバンボグド山の氷河トレッキングが国内外の観光客に人気だからである。冬になると鷹狩りが行われ、近年では鷹匠たちの技を競うイヌワシ祭りも秋に行われるようになったそうだ。加えて、カザフスタンからの親戚訪問客が絶えない。

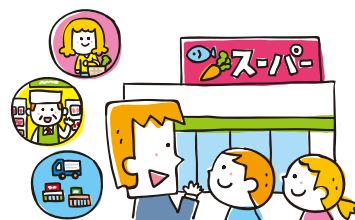
民主化以降、カザフスタンの大統領ナザルバエフの呼びかけに応じて、1990年代に住民の半分に相当する約4万人がカザフスタンに移住したと言われる。スターリン時代に肅清されたのでモンゴルを恨んでいるせいだとみる研究者もいる。しかし、私はそうは思わない。

市場経済化に伴って機会があれば移動するのは彼らにとって自然体だったろう。自然環境ばかりでなく、社会環境の変動に対応するのもまた遊牧民たちの行動原理である、と言えよう。

ただし、カザフスタンに移住したカザフ人の多くが数年後には帰国してきた。ロシア語世界で職を得ることができなかったからである。10代以下の学齢期で移住した場合には、公的教育を享受し、職を得ることができた。そんな成功組が現在、生まれ故郷に凱旋しているのである。

元来アルタイ山脈周辺に住む遊牧民は国境を越えて移動していたが、中国国内の動乱からの避難民を受け入れるため、1940年、行政区画として「ゆりかご」が設立され、カザフ人の新しい生活空間となったのである。国境を越えた彼らの「ゆりかご」作りは今も続いている。

あらためて、 「見方・考え方」 とは何か



●広島大学大学院教育学研究科准教授 永田 忠道

1 見方・考え方を 感覚的にうけとめる

この度の社会的な見方・考え方の新たな定義は、学習指導要領やその解説を通して、既に多くの先生方が確認されていることと考える。

そこで、ここではあえて、まずは公式な見解や厳密な定義にとらわれずに、自身が純粋な言葉として自然にうけとめた感覚を述べることから始めてみたい。

社会科での見方・考え方なので、やはり国語科や理科などとは異なり、社会的という点に違和感はない。その上で、社会的な見方・考え方とは何かとなると、それは私たちがこの社会で生活する中で社会的な事物や事象を、自分自身でどのように見て考えるかの方法と言ってしまうと、そこに間違いはないだろう。

例えば、ある先生が身近な地域のスーパーマーケットに多くの買い物客が訪れる日常から、なぜ、このお店はこんなに人気があるのだろうかという疑問を持ち考え始めることは、ひとつの社会的な見方・考え方の起点になる。

この先生が担任を務めるクラスのある子どもが、同じスーパーマーケットに対して、単に家族と買い物をする場所としてだけでなく、社会科の授業を通して、この先生と同じように見て考えることができるようになるとしたら、それは社会的な見方・考え方を働かせる姿の一例になる。

この時、スーパーマーケットを見て考える視点が先生の経験則だけでも、そこに学習上の一定の価値と意義を見出すことはできるが、社会科の授業の中で先生と子どもたちで、その視点がより学術的にも高度なものへと鍛えられ、成長していく展開になることが期待される。

2 見方・考え方の例示を 確認する

スーパーマーケットを対象とすることの多い第3学年の地域の販売の仕事については、消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高める工夫の理解を目指して、消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、販売に携わっている人々の仕事の様子を捉えることが、学習指導要領では求められている。

さらに学習指導要領の解説では、販売の仕事は消費者の需要を踏まえて売り上げを高めるような工夫をしていること、商店では商品の品質や並べ方、値段の付け方などの工夫をしていること、販売の仕事は商品や人を通して国内の他地域や外国などとも関わりがあること、などの具体的な理解内容が例示されている。

例示された理解内容へ到達するために、消費者はどのようなことを願って買い物をしているか、商店の人は消費者の願いに応え売り上げを高めるためにどのような工夫をしているか、商品や客はどこから来ているか、といった問いを通して、家族などがよく買い物をする店や、買い物する際の工夫、商品の品質管理、売り場での並べ方や値段の付け方、宣伝の仕方、外国を含めた商品の産地や仕入れ先の名称と位置、買い物に来る客の居住地の範囲などについて調べる活動が想定されている。

社会科の授業において、スーパーマーケットを対象とする際に、学習指導要領と解説で期待されている見方・考え方の例示とは、簡潔に整理すると、次の三点に集約される。それは、①消費者側のニーズの視点、②販売者側の営業戦略の視点、③流通と商圏の視点、である。学習指導要領と解

説においては、この三つの視点での考察が進むときには、地域の販売の仕事を対象とする社会的な見方・考え方が効果的に働かせることができる可能性が高くなると示唆していることになる。

子どもたちにとっては、消費者側の視点が当事者目線となることに対して、販売者側の視点はほとんどの場合、他者意識の中での考察となる。自らの経験上でも見えやすい消費者側の立場を起点として、販売者側の営業戦略との関係性に少しずつ気づきを深めながら、身近な地域の販売の仕事であっても、それは幅広い流通や商圈と言った経済的な概念のもとでの営みであることが、小学校の中学年なりに、より可視化できるようになることが目指される。

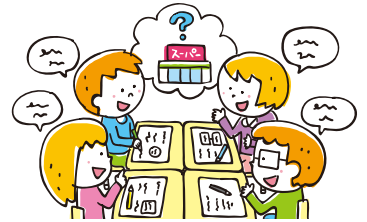
このように考えると、学習指導要領や解説で例示されている社会的な見方・考え方は、先生方にとっては単元や授業を構成する際の、子どもたちにとっては学習成果や到達度のそれぞれの指標としての大きな役割を果たす存在にもなり得るというとらえ方もできる。

3 例示を超える 見方・考え方も視野に

新たに学習指導要領や解説で例示された公式見解としての社会的な見方・考え方は、これまでも社会科に熱心に取り組んできた先生方にとっては、従前の社会科授業を大きく抜本的に変えることを求めているものではないことをお分かりいただけることと考える。第3学年の地域の販売の仕事についても、消費者側の視点だけでなく、販売者側の視点とともに、さらに経済的な概念にも可能な範囲で子どもたちを導こうとされてきた先生方はこれまでも多く、そのような実践はもちろんのこととして、公式見解で求められる社会的な見方・考え方を超えるような視点を働かせた社会科授業も数多く蓄積されてきている。

例えば、2015年10月に全国小学校社会科研究協議会の広島大会で公開された広島市立古田台小学校（廣藤誠校長）の実践「わたしたちのくらしと商店の仕事ースーパーって、やっぱりスーパー（超）だ！ー」（高柿成美教諭）は、全17時間の

単元の中で、新学習指導要領と解説で例示された社会的な見方・考え方の三つの視点もしっかりと押さえながら、単元の終盤にはスーパーマーケットの商圈に関わりながら、実は新興住宅団地である自分たちの地域には、なぜスーパーマーケットがないのか、これから地域にスーパーマーケットをつくるとしたら、どうするかの検討が展開された。



本単元では①消費者側のニーズの視点、②販売者側の営業戦略の視点、③流通と商圈の視点に加えて、もう一つの見方・考え方としての「地域と店舗の開発」の視点までを働かせようとする授業が進められたことになる。実際の授業の中では、それまでの学習の成果に即した店舗開発の様々な構想とともに、一方ではこの地域に新たな店舗を開発することへの危惧も子どもたちからは示されて単元は終わられることになった。この単元では、地域の販売の仕事の学習を通して、子どもたちは自分たちの生活する地域のあり方についても探究を始めたことになる。

いま、あらためて見方・考え方とは何かを、新学習指導要領や解説に例示された公式見解だけでなく、感覚やこれまでの優れた実践と照らし合わせて考えてみると、それは必ずしも新規の特別なことではなく、社会科に関わってきた先生方ならば、自然と身につけている力を再確認できる指標であり、子どもたちにとっては深い学びへとむかうための大事な指針になり得ることが分かる。その上で、どこまでの見方・考え方が働かせられているかが、今後は先生方にとっても子どもたちにとっても、評価の重要な要素にもなっていくと考えられる。

● 永田 忠道（ながた ただみち）

専門分野／教科教育学（社会科・生活科）
主要著書／『地域からの社会科の探究』（日本文教出版）、『新社会科授業づくりハンドブック』（明治図書）／『平成 29年版小学校新学習指導要領の展開社会編』（明治図書）／『平成 29年改訂小学校教育課程実践講座生活』（ぎょうせい）
日本文教出版『小学社会』教科書著者





新学習指導要領に対応した 第6学年の指導

● 東京都豊島区立千早小学校

仲 純平

● 愛知教育大学教授

土屋 武志



2020年度からの新学習指導要領実施に向け、
各学年の内容の変更点と、単元事例を紹介します。
今回は6年の指導について解説、ご提案いただきました。



何が変わらず 何が変わるか？

今回の改訂で引き続き強調されている点は、社会科で育てようとしている「公民的資質」の定義である。「平和で民主的な国家・社会の形成者としての自覚、自他の人格を互いに尊重し合うこと、社会的義務や責任を果たそうとすること、社会生活の様々な場面で多面的に考えたり、公正に判断したりすること」などの態度や能力は、今後も引き継がれるとされた。

そのうえで、小学校社会科は、世界の国々との関わりや政治のしくみや働きへの関心を高めるため、第6学年は、内容構成が大きく改められた。

これまでは歴史の後に公民内容が示され、学習活動もその順序で実践されてきたが、今回、まず「我が国の政治の働き」、次に「我が国の歴史上の主な事象」、そして「グローバル化する世界と日本の役割」となり、歴史内容を公民内容が挟む形となった。つまり、今回特に重視される「学習の問題を追究・解決する活動」を充実するため、現在の政治のしくみを踏まえて歴史を学習し、それをもとにこれからの国際社会を考察するという新しい内容構成になった。

これは、中教審の議論などで、6年の歴史学習が（幕府や新政府など）政治のしくみの変化を前提とした内容であるにもかかわらず、政治を歴史の後に学ぶ構成となっていることが、6年の学習を子

どもたちの身近なものにしない原因ではないかと
する声などを踏まえた変化である。



第6学年での主体的・ 対話的で深い学び

今回の改訂によって歴史学習に先立って学習される公民学習では、国や地方公共団体の「政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わり」を取り上げることとされた。歴史学習に先立って、政治のしくみ（政策の過程）を子どもたち自身が、問いを持って対話的（協働的）に学ぶことが、後に続く歴史学習をより主体的な学習にする。

そのさい、第6学年の目標の中に「地図帳や地球儀、統計や年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付ける」とあることに留意したい。つまり、「まとめる」活動として、子どもたち自身が地図、統計や年表をつくって、それをもとに説明する場面がある授業が必要と考えられる。子どもたちにとって、年表等の資料は、既製品を使うだけでなく、自らつくるものという常識を付けたいものである。それが、今後、子どもたちが中学生・高校生となったときにも生きて働く技能となるだろう。加えて、それら資料をもとに子ども同士が対話し互いに学びを深める経験が、意見を異にしても人格を互いに尊重し合う民主的な「公民的資質」を育むことになろう。（土屋）

小単元事例

わたしたちのくらしと日本国憲法

「政治」から始まり「歴史」を通して「未来」へ繋がる6年社会科

第6学年社会科において、今回の学習指導要領の改訂の要点は、何といたっても内容構成が変わり政治学習が歴史学習の前におかれたこと。その政治学習においても、先に「日本国憲法や立法、行政、司法の三権と国民生活に関する内容」が示され、「国や地方公共団体の政治の取組に関する内容」と順序が変わったことであろう。それは、政治の働きへの関心を高めることともに、6年社会科に一つの筋道ができたことだと考えられる。現在の政治のしくみを学習し、それが日本の歴史の中でどのように獲得されてきたかを学び、国際社会での我が国の役割を考えることを経て、わたしたちの未来を見据えていくことができると考えられるからである。

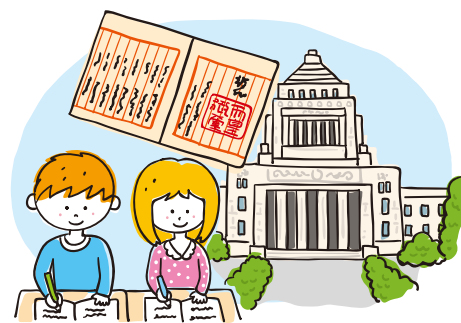
ただ、すべてを網羅することはできないので、ここでは政治学習に絞っていきたい。

本稿では、政治学習のうち、大単元の導入から、特に、日本国憲法と政治のしくみについての学習を想定した小単元の実践について提案したい。

日本国憲法と政治のしくみ

平成27年版『小学社会6年』では、憲法と政治の学習は下巻に収録されている。大単元「わたしたちのくらしと政治」の第1小単元「わたしたちの願いと政治のはたらき」が最初におかれているが、学習指導要領改訂に合わせて、第2単元「わたしたちのくらしと憲法」のなかの、憲法の三原則（国民主権、基本的人権の尊重、平和主義）と、わが国の政治のしくみ（国会、内閣、裁判所）とを一つの小単元と想定し、実践してみたい。

まず、大単元の導入で、首相や地方公共団体の長の写真を提示し人物から学習に入る。どちらも



国、地方公共団体というまとまりを治めている人物であることをおさえ、そこに3年生から5年生までの既習内容のうち、政治、法やきまりにかかわる内容を、写真等を活用し想起させる。このとき、「政治」の定義について説明しておく。今後繰り返し出てくる言葉についてははっきりさせておくことが子どもたちの学習の支えとなる。その後、小単元の導入において、首相などが日本国憲法を基に政治をおこなっていることを知らせる。あえて、先に政治と日本国憲法に繋がりがあることをつかませることで、子どもの生活と政治や日本国憲法との繋がりに疑問をもたせる布石のようにする。

次に、日本国憲法が最高法規であること、基本的な考え方である三原則等について調べさせる。

「憲法記念日」にからめると、学習時期もふまえ、効果的であると考ええる。

後半では、身近な公共施設等を取り上げ、子供の日常生活と政治や日本国憲法とのギャップから疑問をもたせ、学習問題を見出して学習を展開していく。政治をおこなう人物や日本国憲法と子供をうまくつなぎ合わせることができれば、その学習がぐっと身近になると考える。ここで日常生活に根差した学習を展開することで、このあとに続く国や地方公共団体政治の働きの学習の理解がより深まると思われる。

小単元終末の活動について

小単元の終末において、例えば模擬選挙をしたり、模擬裁判員裁判をしたりする活動を設定することで、自分たちにできることを考えさせたい。（伸）

●小単元名

わたしたちのくらしと日本国憲法

- 小単元の目標 日本国憲法の基本的な考え方に着目して、我が国の民主政治を捉え、日本国憲法が国民生活に果たす役割や、国会、内閣、裁判所と国民の関わりを考え、表現することを通して、日本国憲法は国家の理想、天皇の地位、国民としての権利及び義務など国家や国民生活の基本を定めていることや、現在の我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方に基づいていることを理解するとともに、立法、行政、司法の三権がそれぞれの役割を果たしていることを理解できるようにする。

主な学習活動

ポイント

大単元（わたしたちのくらしと政治）導入

- 担任、地方公共団体の長、首相の写真を提示し、それぞれが学級、市区町村、国というまとまりを治めることを任された人物であることを通して、政治の学習に関心をもたせる。

資料 担任、地方公共団体の長、首相の写真

- 政治を身近に感じさせるために人物から導入し、3年生から5年生までに学習した政治にかかわる内容を想起させていく。
- 政治の定義をおさえる。

小単元導入

- 首相、地方公共団体の長が日本国憲法を基に政治をおこなっていることを知り、日本国憲法や政治について疑問を話し合う。



日本の政治は日本国憲法にもとづいておこなわれているのかな。

- 学習問題をつくり、問題を解決する見通しをもたせる。

わたしたちのくらしと日本国憲法や政治は、どのようなかわりがあるのだろう。

- 国民主権について、日本国憲法の前文などを基に調べる。

資料 日本国憲法前文（平易にあるいは要約したもの）

- 基本的人権の尊重について調べる。

資料 日本国憲法条文、国民の権利や義務の図

- 基本的人権の広がり調べる。

資料 子どもの権利条約、障害のある人と働く職場（写真）

- 平和主義について調べる。

資料 平和祈念式典の写真、市（区、町、村）の平和宣言

- 国会のはたらきを調べる。

- 内閣のはたらきを調べる。

- 裁判所のはたらきを調べる。

- 調べてきたことを関係図にまとめ、学習問題について考える。

- 憲法の基礎となっている考えであるので、確実に調べる。

- 現代社会の具体的なテーマを取り上げて話し合わせてもよい。

- 政治先習であるので、戦争については要点をおさえて説明する。

- 三権相互の関係をおさえる。18歳選挙権、裁判員制度についてふれる。

- 複数の立場や意見をふまえ、多角的な見方をさせたい。

本時の展開例

児童の活動と内容

⌚…配分時間

教…教師の発問・指示・説明例
児…予測される児童の発言

指導上の留意点

わたしたちの問題…本時の中心発問
学習問題…みんなで考えたい問題

①本時のめあてを知る。

⌚ 5分

教 首相や市（区、町、村）長は、どんな考えを基に政治をおこなっているのでしょうか。

児 法律があるんだと思う。

児 憲法じゃないかな。

- ・担任は、教育目標などを基に子どもたちを育てていることをあらかじめ話しておく。
- ・日本国憲法が基になっていることを伝える。

わたしたちの問題

国や市（区、町、村）の政治や日本国憲法について疑問に思ったことを話し合い、学習問題をつくろう。

②日本国憲法の基本的な考え方を調べる。

⌚ 15分

教 日本国憲法とは、どのようなものなのでしょうか。

児 国のきまりの中で最高のもの。

児 すべての法律のもととなるもの。

児 三つの原則がある。

- ・日本国憲法についての資料を示す際、ここでは、最高法規であること、三つの原則があること、祝日と関係があることをつかませる。
- ・祝日にかからめて、憲法記念日は5月3日だが、これは施行された日であり、公布されたのは11月3日だということもおさえたい。

③日本国憲法や政治とくらしのつながりについて、疑問を話し合う。

⌚ 15分

教 写真を見て、日本国憲法や政治について疑問に思ったことを話し合いましょう。

児 写真の場所と日本国憲法はかかわりがあるのかな。

児 今まで学習したことは、日本国憲法のどの原則に関係するの。

児 どんな願いでこの建物は建てられたのだろう。

児 基本的人権の尊重ってどういうことかな。

児 国民主権は、生活のどんな場面に表れているのかな。

- ・身近な施設、3～5年生での政治に関わる学習などの写真を用意する。
- ・一人→グループ→全体と話し合いを広げていく。
- ・日本国憲法、国民主権、基本的人権の尊重、平和主義などの言葉を使って話し合わせる。

学習問題

わたしたちのくらしと日本国憲法や政治は、どのようなかかわりがあるのだろう。

④学習計画を立てる。

⌚ 10分

教 どんなことを調べれば、学習問題を解決できそうですか。

児 三原則から調べたほうがいいと思う。

児 日本国憲法ってどんなことが書いてあるか調べてみようよ。

児 選挙も関係あるんじゃないかな。

- ・学習問題をどのように解決していくか、見通しをもたせる。調べる順序や方法を決め、計画を立てていく。



土屋先生'S E Y E

子どもの疑問を大切に

6年生進級直後で、クラスのメンバーも替わっている場合もある中での社会科の授業、そのスタートは、子どもたち自身の身近な疑問（問題）を大切にしたい。子どもは、社会のどんな出来事に興味を持っているだろうか？ その疑問を「政治」や「憲法（人権）」というキーワードにつなげるのがこの単元の役割である。そのさい、社会の問題を「だれが引き起こしているか」、「だれかが解決しようとしているか」など、人物に視点をあてると、「なぜその人はそのようなことをしているのか？」

という追究につながっていく。

このような追究のもとになる疑問を引き出すとき、新聞は非常に効果的である。教師が1週間分の新聞を取っておき、そこから疑問をさがさせる活動がある。このような活動から、社会の問題を解決するために民主的な政治のしくみがあることに気づかせることができれば、クラスでの学びをも「自治的（主体的）」に進めることの大切さを自覚させることになるだろう。

問題解決的な学習って何だろう？

● 國學院大學教授 安野 功

問題解決的な学習を通して、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」など三つの資質・能力を一体的に育てること。

それが新学習指導要領によるこれからの社会科の授業づくりに強く求められています。それはなぜでしょうか。

社会科の教科目標、各学年の目標及び内容において、「学習の問題を追究・解決する活動」を通して、三つの資質・能力を育成するという、これからの社会科の授業づくりの方向性が明示されているからです。

そこで今回は、これからの社会科授業づくりの鍵となる「問題解決的な学習」に焦点を当て、授業改善のポイントを探っていききたいと思います。

最初に明らかにしておきたいことは、「問題解決的な学習って何だろう？」という基本的な問いに対する答えとその根拠です。

そのことについて、小学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編の次の記述を押さえる必要があります。

問題解決的な学習とは、単元などにおける学習問題を設定し、その問題の解決に向けて諸資料や調査活動などで調べ、社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして表現し、社会生活について理解したり、社会への関心を高めたりする学習などを指している。

問題解決的な学習過程の充実を図る際には、主体的・対話的で深い学びを実現するよう、児童が社会的事象から学習問題を見だし、問題解決の見通しをもって他者と協働的に追究し、追究結果を振り返ってまとめたり、新たな問いを見いだしたりする学習過程などを工夫することが考えられる。

▶ 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編』P.20

このように、今、求められている問題解決的な学習の目指すべきゴールは、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」など三つの資質・能力を一体的に育むための主体的・対話的で深い学びです。

また、主体的・対話的で深い学びへと子どもを導くポイントとして、次の3点を挙げています。

① 子ども自らが社会的事象から学習問題を見いだす。

② 問題解決の見通しをもって他者と協働的に追究する。

③ 追究結果をふりかえってまとめたり、新たな問いを見いだしたりする。

これらを踏まえ、社会科のこれらの授業づくりにおいては、前述した目指すべきゴールを押さえたうえで、①～③

それぞれについて具体的な手立てを設け、問題解決的な学習の充実に努めることが大切です。

その詳細については、次号で紹介します。



“三つの資質・能力を一体的に育む主体的・対話的で深い学び”へと子どもを導く「問題解決的な学習」を目指そう！

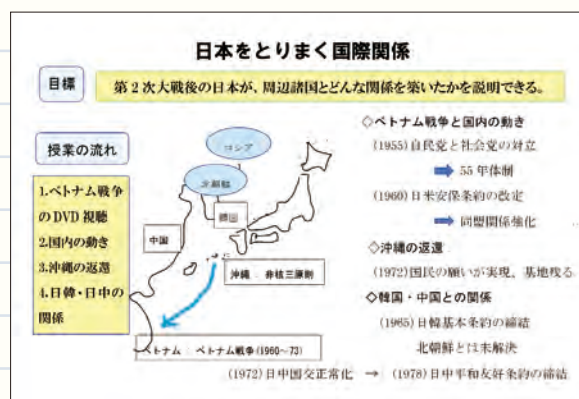
●教壇・教卓・黒板のあり様

本年度より、「主体的・対話的で深い学び」が求められる新学習指導要領の移行期に入っています。単元全体の見通しを持ちながら、50分の授業で、対話的コミュニケーションを軸にする授業展開をめざすには、我が国の近代教育の中で大事にされてきた教壇・教卓・黒板のあり様を改めて問い直す必要があります。

教壇のある学校はずいぶん少なくなりました。それは、教師と生徒が共に授業を創っていくための当然の流れです。多くの教室には教卓がありますが、背の高い教卓が生徒の視線を遮り、教師と生徒の距離を隔てることになっていませんか。教材・教具を置くためであれば、低い机がサイドにあればいいでしょう。黒板はどうでしょうか。

そこで、下記のような板書を求めたいと思います。

分量はコンパクトにし、地図・年表・写真・図表・チャート図などを活用したいものです。



●ネーム版の活用で価値判断の授業



大阪教育大学附属平野小学校の安野教諭は、前述の②の板書をしながら、児童に価値判断を迫り、意思決定を行



わせる授業を展開しています。写真は2016年3月7日「TPPと私たちのこれからを考えよう（5年）」の研究授業の場面です。板書とネーム版を活用し、深い学びが成立しています。

●板書は何のために書くのか

何のために板書するのか、考えたことがありますか。板書の機能は、次の3つに整理できます。

- ①教師が自分の伝えたい情報をまとめ、整理したもの
- ②生徒の意見を整理し、要点をまとめて書き、議論を促すもの
- ③生徒に、実際に問題を解かせて、答えを導く過程を確認するためのもの

中学校社会科の授業では、圧倒的に①が多く、生徒が機械的に板書を写す光景をよく見かけます。分量が多ければ、時間もかかります。板書は、生徒が間違ったとき、分からなくなった時に参照するための情報をストックするものです。そして、教師と生徒による授業を創るには、黒板を活用して、本時のテーマと目標、本時の流れを全体で共有する必要があります。

経済教育ネットワークが つなぐ社会科教育

●同志社大学教授 野間 敏克

経済教育ネットワークとは

2006年「経済教育ネットワーク」という任意団体が発足した。設立を主導し、代表となったのは篠原総一同志社大学教授（当時）。副理事長は大竹文雄大阪大学教授で、筆者も発足当初から理事の一人として活動している。会則には以下のとおり会の目的が定められている。『本会は、経済教育を実践している様々な活動主体を「ゆるやかな」ネットワークの下で結びつけ、それぞれの教育事業の向上を支援し、特に経済教育に関する情報の収集と発信などの面で日本におけるワンストップ・サービスを提供することを目的とする。』



▲ 経済教育ネットワーク HP (<http://www.econ-edu.net/>)

個人会費は無料の会員組織であり、個人会員の数が2018年の段階で約400人、最も多いのは中学校、高等学校の社会科教師であるが、家庭科教師や小学校教師もみられる。われわれ大学教員、教科書会社をはじめとする教育産業、証券取引所、シンクタンク、コンサル、文科省関係者、大学生

や大学院生など、会則にあるとおり様々な活動主体から成り立っている。ただし、以下に紹介する活動のすべてについて、会員登録をしていなくても参加することができる。

ネットワークの活動内容

主な活動内容は4つある。まずは部会を、定期的に各所で開いている。東京部会はほぼ毎月開かれ、出席者は15～20名。大阪では2ヶ月に1度、札幌では4ヶ月に1度の頻度で開かれ、いずれも15名前後が出席している。部会では、2時間あまりをかけて、授業実践報告や新しい授業提案、経済教育に関する情報交換などが行われている。部会相互でも交流を促しており、面白そうな実践については、他の部会に出向いて報告をしてもらっている。部会の後は懇親会が開かれ、率直な意見交換の場となっている。

第2に、最も大規模な活動として「先生のための「夏休み経済教室」を東京証券取引所と共催している。2008年から始められ、近年は名古屋、大阪、東京高校教員向け、東京中学校教員向けの順番に、それぞれ2日間ずつ計8日間開催しており、のべ1000人近い教師が参加する一大事業となった。

「夏休み経済教室」では、参加者の授業づくりに役立つように、優れた実践報告や新しい試みの紹介が最も多く行われている。専門家による「教科書を読み解くシリーズ」や、歴史事象を経済の視点からとらえる「歴史シリーズ」は、参加者からの評価が高いプログラムである。その他、有名なエコノミストによる、最先端の経済学の考え方の紹介や、最新の時事問題の解説なども行っている。講師の方々には、中学・高校の教育現場を意識してくださるよう、時には事前に中学・高校の教科書をご覧いただいた



▲ 先生のための「夏休み経済教室」の様子（2018年）

うえで、講演をお願いしている。

ネットワーク発足当初は、大学教員が直接中学・高校に出かけて生徒に経済の話をしようとしていた。教科書の解説や最新の話題紹介ができると考えていたのである。けれども、ふだん大教室で講義をしている者が、40人の教室で生徒に教えようとしても、中高の先生のようにうまく伝わらない。身の程をわきまえ、大学教員が生徒に直接話すよりも、現場教師を通して間接的に経済教育に役立てばよいと考えた結果が、この夏休み経済教室になり、それなりの成果をあげていると思う。

第3に、年1回の年次大会でシンポジウムを行っている。毎年、教師からの要望も聞きながらテーマを定め、基調講演、パネル討論、参加者との意見交換を行っている。近年の共通テーマには「中・高の新学習指導要領を経済教育から解剖する」「主権者教育：経済の視点から」「経済教育と法教育の対話」などが並んでいる。

第4に、北海道から沖縄までの日本各地でワークショップを開いている。内容や規模は様々で、今年は1月に那覇で「経済から地理を学ぶ・歴史を学ぶ」などをテーマに開催され、10月には北見で「交通の経済学」などをテーマに開催が予定されている。部会や経済教室で知り合った、全国各地の先生方とのネットワークが少しずつ広がっている。

部会以外の活動では、できるだけ教育委員会等の

後援を受け、先生方が研修として参加しやすいようにしている。たとえば東京での夏の経済教室では、文科省、東京都と近隣県の教育委員会、全国および東京の社会科教育研究会、金融広報中央委員会などの後援を受けている。

今後について

団体発足から13年目を迎え、出会う教師たちの年齢層がずいぶん若くなった印象である。学習指導要領の変化にみられるように、授業で求められるものは変わってきている。それに関わらず、学校現場では社会科や公民科について相談できる同僚や先輩がいないとの話も聞く。また、授業以外でしなければならない事が増え、どの先生も忙しそうだ。「経済教育ネットワーク」での活動を通して、先生方の負担を減らし、授業作りに役立つような情報を収集し発信することを、続けられるところまで続けたいと思う。

● 野間 敏克（のま としかつ）

大学では「現代経済入門」「金融政策」などの授業を担当。地域金融を専門とし、主論文に「地方銀行パフォーマンスと地域経済」筒井・植村編『リレーションシップバンキングと地域金融』（日本経済新聞社）所収、主著に『金融の仕組みと働き』（共著、有斐閣）などがある。



「彷徨える河」

2015年 コロンビア・ベネズエラ・アルゼンチン映画 124分
監督/シーロ・ゲーラ

●国立民族学博物館 助教 八木 百合子



© Ciudad Lunar Producciones



【DVD 発売中】
価格 : ¥3,800 (税抜)
発売元 : トレノバ
販売元 : ポニーキャニオン
品番 : PCBE-55716
本編時間 : 124分

あらすじ

舞 台はコロンビア南東部のアマゾン上流域。異なる時代にそこを訪れた二人の白人探検家と先住民男性カラマカテとの出会いが生み出した物語である。二人の白人のうち、最初にやって来たのが、ドイツ民族学者のテオドールだ。20世紀初頭、彼は先住民出身の青年マンドゥカとともにアマゾンで民族調査を続けていた。だが、その途中、重い病に侵され、瀕死の状態に辿り着いたのが、シャーマンであるカラマカテの元だった。そして、カラマカテの導きにより、幻の聖なる植物ヤクルナを探して、ともにジャングル深奥への旅路につくことになる。部族の仲間を失い、孤独に森をさまよっていたカラマカテは当初、白人に対して半信半疑であったが、旅が進むにつれ、しだいに打ち解けてゆくのだった。

それから約30年後、テオドールが残した記録を手に同地へと足を踏み

入れたのが、アメリカ人植物学者エヴァンだ。彼はそこで偶然にもテオドールが会ったのと同じ先住民男性に遭遇するのである。数十年の時を経て、二人の白人の記憶を結びつける存在となるのが、カラマカテなのだ。しかしその頃、カラマカテはもうシャーマンとしての知識や記憶もおぼろげな古老と化していた。そんな「チュジャチャキ（記憶を失い、中身の無い存在）」のような自分を嘆き悲しみつつも、カラマカテは白人が欲して止まない幻の植物のありかを知る唯一の人間として、かの地に向け旅に出る。

二つの旅のなかで彼らは、ゴム採集により荒廃した居住地や先住民の文明化を高らかにうたうキリスト教の布教区の姿を目の当たりにする。マンドゥカやカラマカテは、ゴム農場主による虐待や侵略者により村を滅ぼされた過去をもつ。ときおり、白人に対する憎悪や疑念を見せながらも、彼らは祖先から受け継いだ知識を後世に伝える最後の手段として、白人探検家が残す記録の重要性に理解を示す。そして、長



い冒険の果てに漸くヤクルナに巡り会う彼らだが、そこでこの旅の真の意味を知ることになるのである。

🎬 アマゾン映画の真骨頂

登 場する二人の白人探検家は、いずれも実在した人物であり、本作は彼らが残した手記をもとに編まれている。しかし本作は、白人探検家による単なるアマゾン旅行記などではない。白人の手記をもとにしながらも、アマゾンの神秘的かつ幻想的な世界を先住民の視点から映し出しているのだ。本作の醍醐味はまさにそこにあり、その意味で従来のアマゾン映画とは一線を画す。

とくに演出において、カラマカテ役には、実際にアマゾンに暮らす先住民族の男性を登用している。若き日のカラマカテ役は、アマゾン流域で生活するクベオ族出身者であり、年老いたカラマカテを演じた人物は、オカイナ族の最後の一人である。役柄とも重なる彼らの人生が作品にリアリティを生み出している。

🎬 アマゾン先住民の光と影

コ ロンビアのアマゾン熱帯雨林には、トゥカノ、デサナ、ユクナなど、およそ80にのぼる先住民族が居住している。互いに言語こそ異なるものの、カラマカテに代表される、シャーマンによる治療は、この地域の先住民族に共通する特徴の一つである。彼らは、自然に対する深い造詣をもち、それとの調和のな

かで自らの世界を築き上げている。主に、社会集団と超自然的存在（神や精霊）の仲介者として、病気治療のほか、通過儀礼をはじめとする儀式を司る。超自然的存在との接触のためには、アヤワスカ（またはカーピ）という幻覚性のある飲物や、鼻から吸引する粉末の薬草を使用し、^{ビジョン}幻覚や夢のなかでそのお告げを聴いたり交渉したりする。夢に忠実に従い生きるカラマカテの言葉には、ジャングルに生きる人の世界観や知識体系を垣間見ることができる。と同時に、彼の生き様からは、ジャングルに敬意を払い、その掟を守ることが森に生きる民の務めであることが強烈に印象づけられる。

いつしかその神秘的世界に魅了される一方で、映画からはアマゾンの惨憺たる現実も突き付けられる。19世紀中頃から20世紀初めにかけてゴムブームを迎えたアマゾンでは、ゴム採集業者による先住民居住地への侵入や組織的なキリスト教化の加速によりカトリックの伝道所の設置が進んだ。その過程で、森の中で静かに暮らしてきた先住民は、強制労働や虐殺、共同体の破壊など数々の犠牲を強いられてきた。また、辺境に住むがゆえに、隣国との国境紛争のなかでも幾多の困難を経験してきたのである。本作は、消えゆく先住民の知識だけでなく、未だジャングルに残るそうした傷跡の多くを伝える稀少な作品といえよう。



● 八木 百合子 (やぎ ゆりこ)

専門分野

文化人類学、ラテンアメリカ地域研究

主要著書ほか

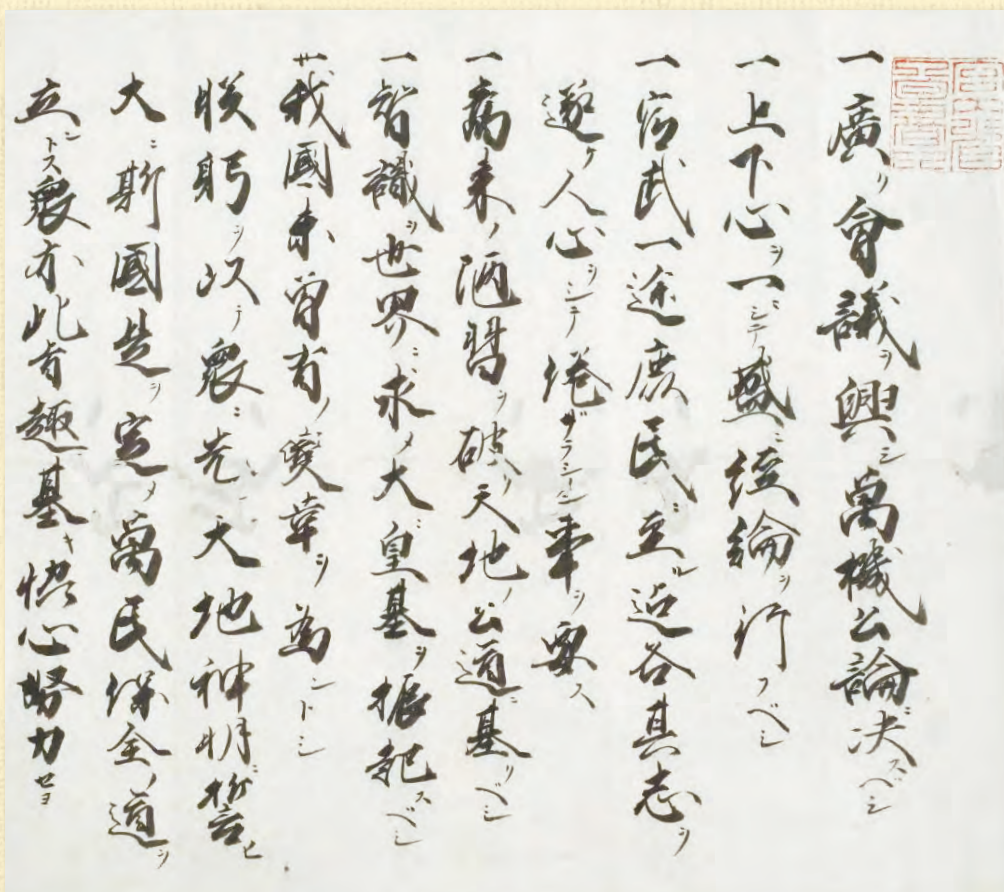
『アンデスの聖人信仰—人の移動が織りなす文化のダイナミズム』（臨川書店、2015年）、『アンデス世界—交渉と創造の力学』（共著、世界思想社、2012年）

国立民族学博物館（みんぱく）では、11月4日（日）の映画会「みんぱくワールドシネマ」で、「彷徨える河」を上映します（無料）。

🌐 詳しくはみんぱくのホームページ <http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/fs/> をご覧ください。

五箇条の御誓文とその後

● 佛教大学教授 原田 敬一



▲ 五箇条の御誓文（宮内庁書陵部蔵）

◀ 史料へ五箇条の御誓文

- 一 広く會議を興し、総てを公論で決めるべし
- 一 身分の上下にかかわらず、心を一つにし、盛んに統治を進めるべし
- 一 公家・武家・庶民に至るまで高い志を持ち、人心が離れないようにするべし
- 一 これまでの悪い慣習を止め、世界に通じる公の道に基づくべし
- 一 知識を世界に求め、大いに国家の基礎を盛んにするべし

百官を率いた神への誓い

太陽暦で言えば、1868年は王政復古の大号令を発したことに始まった（1月3日）。その月末の27日鳥羽・伏見の戦い（翌年6月27日に終わる戊辰戦争の開始）となる。9月、江戸を東京とする天皇の詔書が出され、10月〈慶応〉を〈明治〉と改元するなど、激動の一年だった。

その中で、4月6日、京都の御所で天皇が公家と大名・諸役人を率い、〈五箇条の御誓文〉を天神地祇（日本の神々）に誓った。国家の国是が歴史上初めて示された。

翌7日が江戸城総攻撃の日と予定されており（実際には無血開城となった）、その前日に国是を示すことは対外関係を創る上で重要だった。



▲『五箇条御誓文 乾南陽画』〈一部〉
（五箇条御誓文・乾南陽・聖徳記念絵画館蔵）

天皇の誓いの後、議定や公家・大名らが署名したように、これは公家と武家の誓約でもあった。

新政府を創るにあたり、公家が武家を、また大名が藩士クラスを同等と見ない陋習（古い悪習）を破り、「上下心ヲ一ニ」することを求めた、極めて实际的な誓約だった。

■ 誓文の起草

誓文の起草は、参与（新政府のポスト）の二人、由利公正（越前福井藩士）と福岡孝弟（土佐藩士）が1月に起草したものを、参与の木戸孝允（長州藩士）が修正してまとめた。由利・福岡の案では、



▲ 由利公正 (1829～1909)



▲ 福岡孝弟 (1835～1919)

「列侯會議ヲ興シ」とあったが、「広く會議ヲ興シ」と修正され、新たに「一 旧来ノ陋習ヲ破り天地ノ公道ニ基クヘシ」を加えるなど、新政府の国是として整えられた。国是の布告が必要だという木戸の提案が実り、4月の儀式となった。

■ 「公議輿論」のその後

江戸時代の老中らの密室会議を否定し、「広く會議ヲ興シ万機公論ニ決スヘシ」と第一条に高らかに謳ったのだが、実現は難しかった。藩士の代表を集めた集議所や公議所などが設置されたが、発展しなかった。1871年から73年にかけての岩倉使節団で、憲法と議会について深く知った木戸は、その必要を説いたが、使節団で一緒だった大久保利通は時機尚早論で、議会より富国強兵の実現が優先されるとした。薩長土肥などの藩閥勢力が政治の中心を担うのは、「公議輿論」とはほど遠く、1874年の〈民撰議院設立建白書〉の批判点となっ

た。

結局「公議輿論」の実現は、自由民権運動が高まったことで1881年10月、10年後の憲法発布・議会開設を宣言することになった（明治14年の政変）。

■ 「智識ヲ世界ニ」のその後

外国との和親策を取ることは、新政府の外交方針としてすでに2カ月前の2月8日、各国公使に王政復古を告げた際に明確にしていた。薩長などの攘夷派が新政府を握ると欧米の外交官が推測している中で、この通告は重要だった。実際には1カ月前の3月8日に、土佐藩兵がフランス兵と争い殺傷する事件（堺事件）も起きていたが。

さらに「智識ヲ世界ニ求め大ニ皇基ヲ振起スヘシ」（第五条）は外交策だけでなく、今後の日本が進むべき方向を示した。ペリー来航で日本が知ったのは産業革命で世界が大きく変化したことだった。それを急いで吸収するために、多くの外国人を政府や学校などで雇い（お雇い外国人）、多くの青年を欧米に留学させた。岩倉使節団は留学生たちも連れて出発している。

■ 民衆へは〈五榜の掲示〉

開明的な国是の発表だったが、翌7日に旧幕府の高札を廃止し、新たに発布した5カ条の禁令〈五榜の掲示〉は、儒教の道徳を守ること、徒党・強訴・逃散の禁止、キリシタンの禁止、脱籍浮浪の防止を宣言し、民衆への厳しい政策は不変であることを示した。

● 原田 敬一（はらだ けいち）

専門分野／日本近代史

主要著書／『日本近代都市史研究』（思文閣出版、1997年）、『日清・日露戦争』（岩波書店、2007年）、『兵士はどこへ行った 軍用墓地と国民国家』（有志舎、2013年）、『戦争』の終わらせ方』（新日本出版社、2015年）など



外国からみる日本の政治

●東海大学教授
筑波大学名誉教授 辻中 豊

これまで連載では、アメリカのような日本に馴染みのある国から、近くて遠い隣国、中国やロシア、そしてアジアの親日国のバングラデシュ、ベトナムと、これまでの日本との比較されることの少ない、そしてずいぶん日本とは常識の異なる国々について見てきました。

アジアに重心のある新しい世界

今年2018年は明治維新から150年目の記念の年ですが、日本人は、明治に始まる近代化の過程で、常に欧米諸国を見て、自分たちの国や社会の物差しにしてきました。現在でも、知らず知らずのうちに比較参照する相手は欧米先進国に偏っています。しかし、21世紀の日本の針路を考えるうえで十分でないように思います。人口では、現在14億人を超える中国をはじめ、21世紀中ごろには16億人を超えて世界一の人口大国となるインドや、インドネシア、パキスタン、バングラデシュが2億人以上の人口をかかえるようになります。

世界経済の重心も欧米から大きくアジアに移動します。中国が2014年に打ち出した「一帯一路」構想（アジアとヨーロッパを結ぶ陸と海の新しいシルクロード計画）は、2015年末に発足したAIIB（アジアインフラ投資銀行）とともに、中国が主導



▲ 中国の一帯一路構想（陸と海のシルクロード）



▲ アシガバードの官庁街

する経済発展を強力に進めているようにも見えます。イギリスがEUから離脱し、トランプ大統領がアメリカ第一主義を唱え、グローバリズムに背を向けるように見えるとの対照的です。世界は、これまでとは別の秩序へ向かっているのでしょうか。

生活の「よきありかた」を目指す政治

世界中を調査していて感じるのは、こうした大国間の喧騒とは別に、人々の願いの共通性です。どの国の人々も政治も、人々の生活の「よきありかた」（wellbeing）を保证するしるきを懸命に模索しているということです。かつて欧米が示すことができたしるきのモデルが十分ではなくなっているのです。アメリカの自由主義（経済・貿易）、ヨーロッパの福祉国家は、いずれも20世紀の世界に強いインパクトを与えましたが、現在ではかつての魅力は色褪せています。

それに代わって世界中で、社会のしるきの革新や新機軸を意味する、さまざまなソーシャルイノベーションが唱えられています。これは、ヨー

ロッパとアジアで特に注目されており、社会的課題やニーズに対して、既存の解決策より効果的に対応できる新たなサービス・取組み・手法等を提案するものです。例えば、最近日本でも注目されているシェアリングエコノミーは、中国や東南アジアでの進展振りには目を見張るものがあります。シェアバイクやシェアライドがわかりやすい例ですが、空間、もの、スキル、お金とあらゆるものを割安でシェアし効率的に提供し決済するサービスがICT（情報通信技術）の発展で急速に普及しています。日本ではまだ部分的

ですが、中国や東南アジアではもう普通に使われています。このほか、バングラデシュから出発したマイクロファイナンスや、日本でも浸透しつつあるフェアトレードが分かりやすい例です。

ソーシャルイノベーションは、日本では、社会起業家、社会的投資、技術革新（第4次産業革命、IoT、ビッグデータ、AI等）の社会制度への応用と結び付けてとらえることが多いようです。しかし、世界では、もっと広く福祉国家、教育制度、健康保険、環境運動、公民権運動、フェミニズム、インターネット、さらには、国立公園、世界遺産、NPO、地方分権、地域医療・介護システム、コミュニティ制度まで、あらゆる社会のしくみの革新、それによる社会的課題の解決を意味するようになっています。

日本の高齢社会を世界は注目する

さて、こうしたアジアに重心を移す世界と人々のよきあり方をめざす動きの中で、日本の政治はどのような意義をもつのでしょうか。

極端な例をあげましょう。前にも触れたフリーダムハウスによれば世界で最も自由のない国家は現時点では北朝鮮ですが、それに次いで自由のない国家がトルクメニスタンです。写真は首都アシガバードの官庁街、大理石でできた素晴らしい宮殿ビルが立ち並んでいます。人の気配はありません。これとよく似た素晴らしい高層ビル群を中国の各地で見かけますが、鬼城（中国語で「鬼」は幽霊を意味します）と呼ばれるゴーストタウンになっている地域もたくさんあります。綺麗なビルが海岸に立ち並ぶ様子は南アフリカ・ダーバンでも見かけましたが、犯罪率が高くて外国人は出歩くこともできません。結局、人々のよきあり方は高層ビル群に象徴される「発展」が保証するものではないということです。

アジア、特に中国のソーシャルイノベーションが注目するのは、日本の市民社会のしくみです。とりわけ高齢社会を維持させているしくみです。欧米と異なり、アジアの高齢化は急速なスピードで進んでいるという共通点があります。欧米諸国では65歳以上人口が7%から14%となるのに数十

●辻中 豊（つじなか ゆたか）

専門分野／政治学

主要著書／『大震災に学ぶ社会科学 第1巻 政治過程と政策』（東洋経済新報社、2016年）、『現代日本のNPO政治—市民社会の新局面（現代市民社会叢書）』（木鐸社、2012年）、『利益集団（現代政治学叢書）』（東京大学出版会、1988年）、日本文教出版『中学社会』教科書著者



年要したのに対し、日本、中国、韓国、シンガポールなどはいずれも25年以内に到達しています。それゆえ高齢社会を支えるしくみは、欧米とは異ならざるをえず、世界から日本のしくみが注目されています。

日本政治の不思議

日本の政治には、世界からみれば、いくつかの不思議があります。

欧米からは、なぜ政権交代が少ないか、なぜ一つの政党、自由民主党が強いのか、が不思議であり、他方でアジアからは、なぜ自由で民主主義的なしくみが安定して機能し、公正な選挙や政治活動が営まれているか、が不思議です。また、度重なる自然災害にも関わらず、なぜ日本の社会は頑強か、人々は震災に直面しても協力し合いパニックを起こさないのか、このことも不思議です。実は、こうした多くの不思議は、日本の市民社会と政治の関係に原因があるのです。この連載で触れてきた、日本の豊かな草の根の組織、人々の集団生活は、民主主義を体現するとともに、ある時は保守的に、あるときは協力的に日本のソーシャルキャピタルを育んでいます。

日本の市民社会のあり方もこの20年で大きく変化しています。そうしたなかでも、海外の若者は日本の漫画やアニメやドラマから日本の魅力を感じています。少し前に流行した映画「君の名は」は海外でも公開されましたが、そこには日本の市民社会、生活が細部まで描かれています。アジアに重心を移す21世紀においてこそ、日本の市民社会と政治は、世界から期待されており、人々のよきありかたに欧米とは異なる大きなモデルを提供することが可能なのです。



完全養殖クロマグロの誕生と未来

●近畿大学水産研究所 所長 升間 主計

近畿大学水産研究所の創設

水産研究所は、戦後間もない1948(昭和23)年に初代総長であった世耕弘一の「戦後日本の復興は食料の生産が基盤である。陸上の土地の耕作だけでなく、海を耕して海産物を増やすことが必要である。」との理念のもとに創設された。その世耕総長の理念を実現したのが、第2代水産研究所所長の原田輝雄教授であった。原田教授が世耕総長から課せられた使命は、「研究と経営の両立」と「有為な人材の育成」であった。

当時の海水養殖はノリ、カキが主体でブリ養殖が1か所のみ、施設は湾を堤防で仕切った大規模な築堤式養殖法によるものであった。そこで原田教授は、1954(昭和29)年から白浜の第一養魚場でのブリ養殖と平行して、化繊網を用いた網生簀式養殖法の開発を進め、この養殖法は国内外に広まっ

た。1955(昭和30)年からマダイ、シマアジ等の研究にも着手し、「研究と経営」を両立するための基盤が固まっていた。1958(昭和33)年には農学部が設置が認可され、「有為な人材の育成」のため水産学科が開講、世耕総長からの使命が実現されていた。



▲奥側の海面が当時ブリなどの養殖を行っていた水産研究所白浜第一養魚場

クロマグロ研究のはじまり

1960年代には、世界的な海洋開発時代の幕開けと、マグロ類などの国際資源(公海域にも広く分布・回遊するマグロ類、サケ・マス類等の資源)の管理という風潮が急速に高まっていく。その中で、日本は自主的にクロマグロなどの国際資源について増養殖技術開発に着手する姿勢を示すとともに、その成果をあげる努力を続ける必要があった。

そこで1970(昭和45)年に水産庁は、クロマグロの増養殖技術を開発するための大型プロジェクトを世界で初めて開始した。近畿大学は養殖や種苗生産の技術開発に取り組んできていたことから、プロジェクトメンバーの一員として加わるようになった。3年間の

このプロジェクトによって、クロマグロの長期飼育、すなわち養殖、親魚養成の可能性を示すことができた。

産卵と種苗生産技術の開発

プロジェクト終了後も独自に研究を継続し、1979(昭和54)年には大島実験場の網生簀に活け込んだ(天然魚を漁獲して網生簀へ収容すること)ヨコワ*が満5歳(平均体重70kg)に達した同年6月20日の夕刻に産卵した。世界で初めての成功となった。そして採卵した卵をふ化させ飼育を試みたが、全長約6cmまでに全滅してしまった。1980(昭和55)、1982(昭和57)年にも産卵したが、それからは産卵せず技術開発は停滞した。原因もわからないまま時間が過ぎ、11年間にわたって産卵が起こらなかった。その後、宮下盛教授の研究により水温環境の年変動が主要因であることが明らかとなった。

産卵のなかった期間も研究は継続され、その研究を支えたのはマダイなどの生産事業であった。世耕総長の「研究と経営」がクロマグロ研究を支え続けた。

1994(平成6)年に産卵が再開し、種苗生産技術の開発に本格的に着手した。それまでの11年の間に、マダイなどの海産仔稚魚の必須栄養素や種苗生産技術に関するさまざまな研究が進歩した。し

和歌山県白浜町



▶ クロマグロの産卵と採卵作業中の学生(串本町・大島実験場)



かし、クロマグロはさらに高いレベルの技術を必要とする魚種であった。特に、ふ化後10日目までの生残率が低く約10%, 全長6 cm (ふ化後30日頃) で0.2%, ヨコワサイズの全長30 cm (ふ化後約3か月) で0.04%であった。種苗生産期における大きな減耗要因として、ふ化後初期の浮上死と沈降死、次いで共食い(餌と認識して攻撃する行動も含む)、衝突死があげられる。

これらの減耗要因の防除法について研究が進み、現在では30 cm サイズで15%にまで生残率が改善された。しかし、マダイなどの40~50%に比べると著しく低く、さらなる技術開発を必要としている。

1995(平成7), 1996(平成8)年に生産した種苗が2002(平成14)年には7, 6歳に達し、同じ生簀内に計20尾を養成していた。この親魚群が同年6月23日に産卵した。4,510尾をヨコワサイズにまで育てることに成功し、完全養殖が世界で初めて達成された瞬間であった。そして、2004(平成16)年には完全養殖魚として初出荷している。

近年ではヨコワサイズで10万尾以上の種苗を生産し、種苗の販売も行っている。

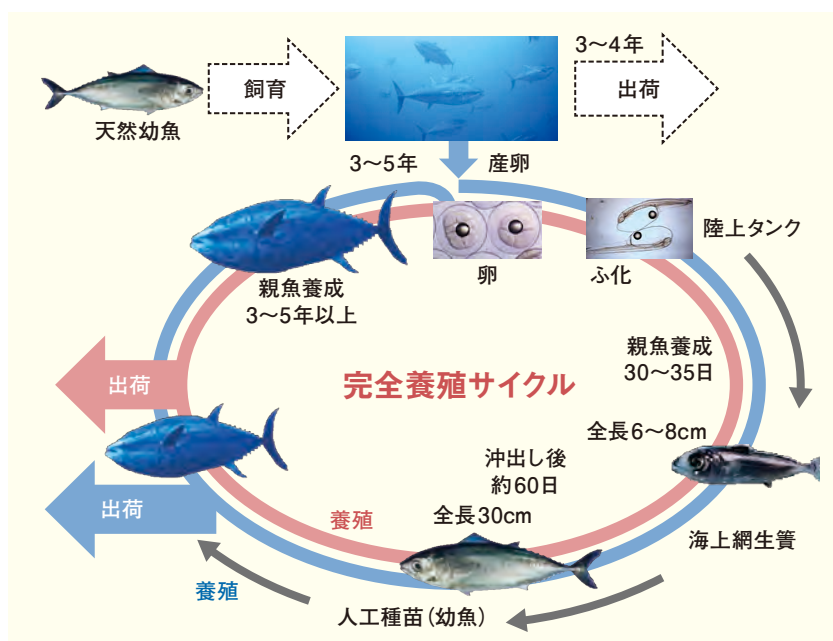
注目される完全養殖

魚類養殖を継続的に営むためには、養殖種苗が安定的に確保できることが必須である。現在、国内で養

殖されている魚種の多くは人工種苗を利用した養殖であるが、ウナギを筆頭にクロマグロ、ブリ、カンパチなど一部の魚種では漁獲した天然種苗を利用している。この中で日本固有種であるブリは天然資源の状態が良く、天然資源の一部を養殖へ利用しても資源に影響するほどではない。しかし、近年資源量の減少が懸念されているウナギやクロマグロなどでは、天然資源の利用が大きな問題となっている。

がっている。

「完全養殖」は人工種苗を親とする種苗を利用した養殖であることから、天然種苗に依存しない。また、親魚から養殖魚までの飼育経過を完全に記録することができる。つまり、持続可能性・トレーサビリティ・安全性を備えていることを証明することが可能なのである。このことから、持続的養殖の将来に向けて完全養殖は注目されている。



▲ クロマグロの完全養殖サイクルの模式図

※ヨコワ…クロマグロの若魚のことで、関西での呼び名。関東では「メジ」と呼ぶ。

● 問い合わせ先

近畿大学水産研究所本部(白浜実験場)
〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 3153
TEL : 0739-42-2625
FAX : 0739-42-2634
URL : <http://www.flku.jp/>

近年、水産物においても資源の持続的な利用と安全性、トレーサビリティについての議論や活動が注目され、その活動は世界的に広

イラストレーター の仕事

●香川 元太郎 (かがわ げんたろう)
1959年愛媛県松山市生まれ。詳しい調査にもとづいて描いた日本の城は数多い。子どもから大人も楽しめる迷路絵本シリーズは15作を数える。



▼『忍者の迷路』の一場面 (PHP研究所から8月発売)



●イラストレーター 香川 元太郎

Q どんな子ども時代でしたか。

A 生まれ育った地域は、戦災で焼けずに残ったところでした。家々の間をせまい路地が縦横無尽に走っていました。学校の行き帰りで通ったり、かくれんぼで友だちと遊んだりするのは、その迷路のような場所でした。それと、父がつくってくれた特製の積み木で毎日、立体的迷路をつくって遊んでいましたね。そんなことが、迷路と深い関わりをもつ要因だったと思います。

Q イラストレーターになりたいという思いは、いつからお持ちでしたか。

A 高校生のころは、城と日本文化に興味をもちました。しかし、大学受験の時期を迎え、どこの大学に行こうか、正直自分で分からなかったんです。ある友だちの助言で、関東の美術大学を目指すことにしました。それに合わせて、日本画を学びました。大学院にも進んだのですが、絵を描いて収入を得るというのはむずかしいことです。大学院卒業後は、舞台芸術の会社に勤めました。かたわら、美術大学時代のついで、雑誌のカットなどを描くようになりました。そのなかで、城のイラストを描く仕事がありました。完成した絵を見た城郭研究の先生にほめられて、その先生が本を出す時、すべての挿絵を私にまかせてくださったのです。それ以来、城のイラストの依頼がくるようになりました。その後、舞台芸術の仕事と、イラストの仕事を両立していましたが、歴史的なイラストの世界には、すごい描き手が

たくさんいました。自分も片手間のようなことはやめて、その人たちと勝負するなら、イラスト業に専念しようと思いました。

Q 迷路絵本のことも聞かせてください。

A 自分の子どもが小さい時、よく迷路を描いてあげました。とても喜んで何回も何回も同じ絵で遊ぶ姿を見ていると、迷路絵本という企画はいけるかもしれないと思いました。三十代のときです。三十歳のころから歴史的なイラストで生計をたてていましたが、四十代になって、少しずつ仕事の空きが見えるようになったんです。そこで、温めていた迷路絵本の企画を出版社に持ちこんだら、すぐに採用されました。それが迷路絵本のはじまりでした。

Q 現在のお仕事のやりがいや、苦労について聞かせてください。

A 朝起きて寝るまで仕事をしています。自宅が職場なので、生活イコール仕事ともいえます。絵を描くことが嫌になったことはありません。そ



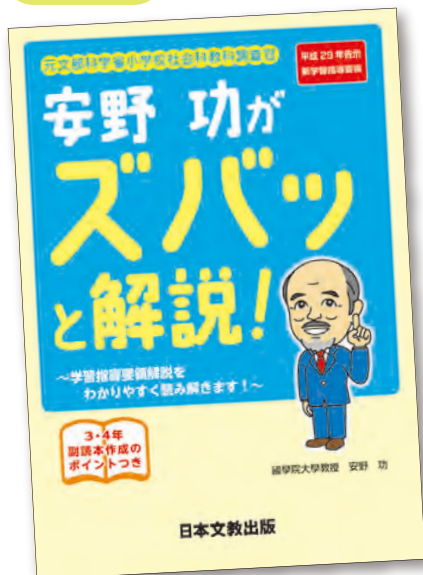
▲ 迷路絵は、時間をかけて少しずつつくりこんでいく

れでも、一日一回は必ず外に出るようにしています。飼っている犬の散歩が日課ですね。このあたりは自然が豊かなので、絵の参考になれば、散歩の途中に写真を撮るようにしています。あと、絵本の読者、子どもたちとイベントなどで触れ合うのがうれしいですね。いろいろ教えてもらうことがあります。

Q これから新しく考えている絵本はありますか。

A 娘と一緒にしかけ絵本をつくりました。ブラックライトを当てれば、隠し絵が浮かび上がるという本です。やりたいものはたくさんありますが、子どもたちがどうすれば喜ぶだろうかという目で、いろいろなしかけを考えていますよ。

小学社会



平成29年告示新学習指導要領
元文部科学省小学校社会教科教科調査官

好評発売中

安野 功がズバツと解説!

～学習指導要領解説をわかりやすく読み解きます!～

本書の主な内容

- 第1章 新しい時代の社会科と教科書の方向性
- 第2章 新学習指導要領を読み解く“五つのキーワード”
- 第3章 新・旧の対比で見えてくる“社会科授業づくりの新しい方向性”
- 第4章 新学習指導要領の実践課題Q&A

著者 國學院大學教授 安野 功

定価 1,728円 (本体1,600円+税8%)
B5判 112頁

中学社会



平成29年告示 新学習指導要領

好評発売中

授業が変わる! 新しい中学社会のポイント

本書の主な内容

- 解説編 新学習指導要領 改訂のポイント
新学習指導要領 新旧対照表 など
- 実践編 「資質・能力」を育成する学習
「見方・考え方」を働かせた学習 など
実力派教師による実践事例を多数収録!
- 資料編 平成29年告示 新学習指導要領 総則・社会

編著 井田仁康／中尾敏朗／橋本康弘

定価 1,944円 (本体1,800円+税8%)
B5判 216頁

お求めは、最寄りの書店でお願い致します。

日本文教出版webサイトでは、各教科情報や、教育
読み物、各種ダウンロード資料などを随時公開中!

編集後記

😊 今号から、新企画「実践ファイル」の連載が始まりました。2017年3月に告示された新学習指導要領について、その内容にどのような変更があるのかを指導計画も交えて解説していただきます。記念すべき第1回は土屋武志先生と仲純平先生のお二人に、第6学年についてご執筆いただきました。

😊 第6学年の社会科といえば、政治学習が歴史学習

の前に配置されるようになりました。詳しくは新企画のページをご覧くださいなのですが、今年は明治維新から150年を迎える年でもあり、政治と歴史の関係を考えることも多いように感じています。今号の「ようこそ! 歴史史料の世界へ」では、原田敬一先生に「五箇条の御誓文」についてご執筆いただきましたので、そちらもどうぞお楽しみください。

教科書訂正のお詫び (小学社会・3・4年上) ◎平成30年に供給いたしました教科書に訂正がございます。先生方におかれましては、弊社Webサイト「小学社会」資料ダウンロードページをご確認のうえご指導いただきますよう、お願い申し上げます。

実は世界で唯一の“公立”盆栽美術館 さいたま市大宮盆栽美術館

●学芸員 石田 留美子

盆栽庭園 ▶



さいたま市大宮盆栽美術館は、平成22年3月28日に開館した、地域の文化芸術を代表する「盆栽」を収集・展示している美術館です。当館のある地域は「大宮盆栽村」と呼ばれ、美術館の近くには盆栽園があります。大宮盆栽村のはじまりは約100年前ということもあり、海外の盆栽ファンの間では「盆栽の聖地」として国際的に知られている地域でもあります。

盆栽の美術館、というだけでも独自性の強い当館ですが、なかでも特徴的なのは、コレクションギャラリーにおける盆栽の室内展示です。一般的には、盆栽は屋外で管理するもの。当館の所蔵盆栽も普段は屋外の培養場で管理していますが、当館では一年を通じて室内で盆栽を展示しています。ただし、屋外との温度



▲ 行の間

湿度の差も考慮し、室内で盆栽を展示できる期間は一週間としていますので、当館では週替わりで室内の盆栽展示を鑑賞することができます。

コレクションギャラリーの最後にある座敷飾りでは、真行草の座敷の格式に合わせて盆栽を展示しています。一番格付けの高い真の間では、樹齢が数百年となる盆栽をはじめ、その季節で一番見ごたえのある名品盆栽を展示していますので、ぜひご来館の際には注目してご鑑賞ください。

盆栽庭園では約60点の盆栽を常設展示していますので、松ひとつとっても五葉松や黒松、赤松といった松の種類を見比べて楽しむこともできます。また、樹齢数百年から約千年といった名品盆栽を鑑賞することができます。盆栽の展示状況は、当館ホームページで調べることができます。

「盆栽はどこから見るのでしょうか?」「下からー!」

盆栽を鑑賞する子どもたちの元気な声があちこちから聞こえてきます。当館では、小学生の学校見学をはじめ、夏休みの小中学



▲ 夏休みワークショップ こけ玉盆栽づくり

生向け企画や、学校における盆栽授業など、様々な教育普及プログラムを実施しています。また、大人も子どもも参加できる、盆栽づくりのワークショップを毎月開催しています。盆栽は見て楽しみ、作って楽しむことができます。ぜひ皆さんも盆栽を見て、作ってお楽しみください。



〒331-0804 埼玉県さいたま市北区土呂町2-24-3
TEL: 048-780-2091
公式サイト <http://www.bonsai-art-museum.jp>

社会科 NAVI Vol.20

日文教育資料 [小・中学校社会]

平成30年(2018年)10月12日発行

編集・発行人 佐々木秀樹

発行所 日本文教出版株式会社

〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL: 06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33423

日本文教出版 株式会社

<http://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL: 06-6692-1261 FAX: 06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
TEL: 03-3389-4611 FAX: 03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
TEL: 092-531-7696 FAX: 092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵1-13-18-7F-B
TEL: 052-979-7260 FAX: 052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL: 011-764-1201 FAX: 011-764-0690